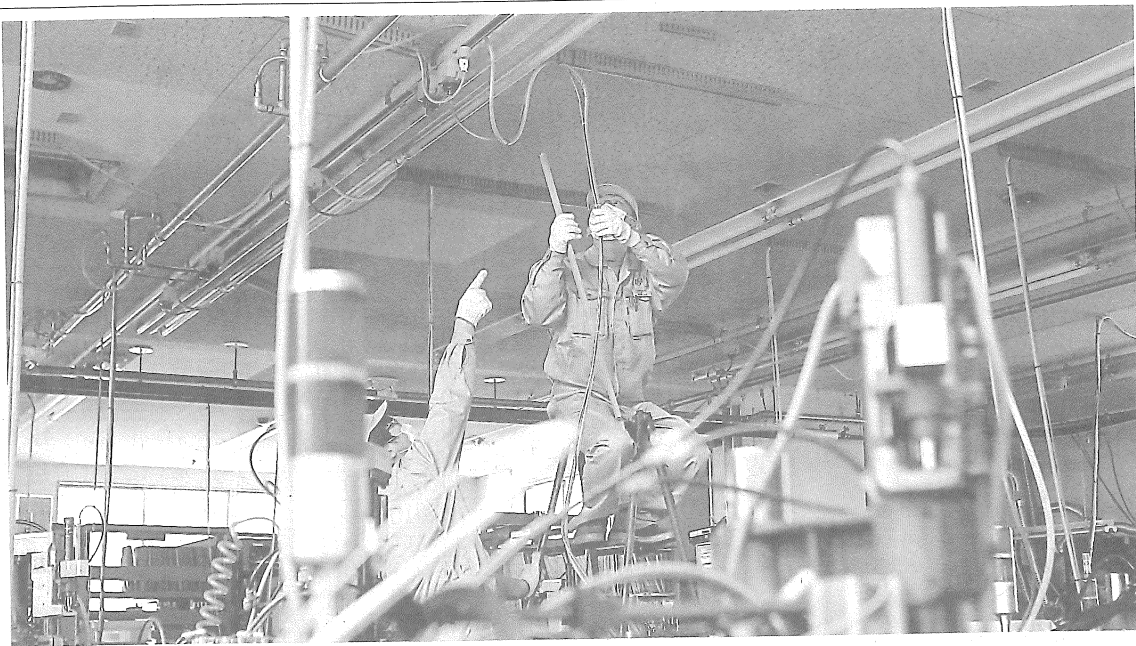


部品工場被災 全国に影



堀尾製作所では、工場の再稼働に向けて機械や配線の調整が続いていた。23日、宮城県石巻市、葛谷晋吾撮影

「機械直したい。でも技術者が来られない」

東北に立地 高いシェア

東日本大震災で被災した東北の企業には、自動車や電気製品に欠かせない部品で高いシェアを握る有力中堅メーカーがある。震災から半月。被災地の工場では必死の復旧作業が続くが、影響は国内外の製造業全体に及んでいる。

(福岡大介、江瀬崇)

現場から

大震災と経済

津波にのまれた宮城県・仙台塩釜港沿いの工業地帯。その一角にある工業用刃物大手「東洋刃物」の多賀城工場には、港から流されてきたコンテナやトラックが次々に激突した。建屋の一部が壊れ、100台以上ある工作機械の修理に取りつかれない。

「使える鋼材だけでも取り出し、他の工場で加工してでも早く納入したい」。菅原俊光工場長は操業再開を急ぐ。多賀城工場は、世界シェアの約3割を握る木材加工用刃物の製造拠点。操業停止が長引けば、マレーシアなどの合板メーカーにも影響が及ぶからだ。

最大の被災地の一つである

石巻市には、ブルーレイ・レコーダーに欠かせない「光ピックアップ」の部品で世界シェア3割を握る鑄造部品会社「堀尾製作所」がある。津波こそ免れたが、操業の本格再開には時間がかかっている。

従業員52人の小さな工場だが、カーオーディオ部品にも強い。2〜3次の下請けメーカーに納入し、最終的には国内外の大手自動車・電機メーカーが堀尾製の精密部品を使う。「いつごろ納入できるのか」。震災で生産が止まってから、自動車メーカーなどからの問い合わせもあった。だが、電気などのインフラが復旧したのは、震災から10日目。家族や自宅を失った従業員もおり、一部の生産を再開できたのは24日だった。

車メーカー 現地支援

震災の被害が大きい岩手、宮城、福島3県の県内総生産は、日本全体の4%に過ぎない。だが、分業が進む日本のものづくりは、部品が一つ欠けるだけでも完成品の製造工程がすべて止まってしまいうだけに、影響は軽視できない。このため、部品の供給を受けるメーカーも必死だ。

震災後、国内での車両生産を見合わせているいくつかの自動車は、腕利きの技術者たち十数人を宮城県村田町の鍛造部品会社TDFに送り込んだ。TDFは、震災で中核の熱処理工程が火事に見舞われ、生産が止まった。主力製品の大型車向け前輪車軸は国内シェア6割超を占め、いすゞも大半をTDFから仕入れている。技術者を派遣してもTDFの早期再開にこぎ着けなければ「ずっと車を造れない」(いすゞ関係者)。

いすゞによると、震災で供給が滞っている部品会社は、TDFを含めて約50社。他の自動車メーカーも事情は同じだ。トヨタ自動車も社員を被災地に派遣し、部品メーカーの復旧支援にあたっている。